

在宅療養を支えるためには、医師、看護師、介護職員のサポート体制を整えることは言うまでもなく、リハビリテーション(以下リハビリ)も欠かすことはできません。

慢性期のリハビリは、リハビリの効果が急激に上がるということではありませんが、患者一人一人の生活機能が年齢、時間とともに変わってくることに対応して、リハビリを根気強く継続していくことが必要になります。入院中はできていたことが在宅に帰るとできなくなるということもよく聞かれることです。状態の評価を定期的に行いながら、慢性期のリハビリを提供していくことは、在宅療養への道を開くことにもつながると言えるのではないのでしょうか。

病院では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、その患者の状態に応じたリハビリを行うことができます。しかし、訪問リハビリの場合、同時に複数の療法士が関わるケースは少ないと思われます。在宅へ訪問した時に、自分の専門領域のみしか対応できないのでは、その患者の生活を支えていくには不十分です。訪問リハビリをきっかけに、仲間の分野の知識や技術も習得してみませんか。訪問リハビリで目指すべきチーム医療は、自分にはない専門領域についてもある程度の知識をもつことではないのでしょうか。

本講座ではこれからの時代を担うリハビリスタッフを育成してまいります。



1日目 <平成26年7月19日(土) 10:50~18:50>

10:50~11:00

11:00~12:20

13:00~14:20

14:30~15:50

16:00~17:20

17:30~18:50

2日目 <平成26年7月20日(日) 9:00~18:40>

9:00~10:20

10:30~11:50

12:40~14:00

14:10~15:30

15:50~17:10

17:20~18:40

